

令和7年度特色ある学校づくり推進事業報告書

学校番号（75） 学校名 豊田市立敷島小学校

1 テーマ

地域の恵みにかかわり、未来へ夢をつなぐ子どもたち
～「ふるさと あさひの恵み」を生かし、見つめ、学び、働きかける～

2 ねらい

- ・地域の恵み（自然・地域住民の知恵・地域の文化・地域の伝統芸能など）を学びの対象として、問題解決型の学習や体験学習などを推進することにより、三つの力（見つめる力・学ぶ力・働きかける力）を育てる。
- ・学校の教育活動全体において三つの力を育成する活動を継続して展開することにより、地域への理解が広がり、地域に誇りを感じ、愛着を深める児童を育てる。
- ・学校図書館司書の活用を通して、読み聞かせや図書館利用指導を行い、進んで本に親しみ、豊かな心をもつ児童を育てる。

3 活動内容

（1）「見つめる力」を育てる場

- ・敷島っ子アドベンチャー：全校縦割り班（6班）で地域の自然や文化に触れる活動を児童中心に計画し、PTAの方のサポートを得て活動した。今年度は、学区にある「旭高原元気村」と「つくラッセル（旧築羽小学校）」に分かれて、それぞれの施設や周りの自然を生かした活動を行った。マレットゴルフを地域の方やPTAと楽しんだり、葉っぱで作品を作ったりした。仲間と地域探訪をすることで、自然を大切にする心や地域の良さを感じる心を育むことができた。

（2）「学ぶ力」を育てる場

- ・生活科や総合的な学習の時間：「しきしまの恵み」を題材として、「（見つめる、学ぶ、働きかける）場面を含んだ）問題解決型の学習を計画し、実践した。

<各学年の実践>

- 1・2年「野菜栽培、地域探検」
- 3年「今から昔へ タイムスリップ」
- 4年「じいじ・ばあば なかよしプロジェクト」
- 5年「敷島地区 動物調査レンジャー」
- 6年「トウモロコシから世界を考える」

- ・地域に伝わる郷土伝統芸能（敷島子ども棒の手）の継承活動：11月の運動会で、全児童が3流派に分かれて演技を披露した。

（3）「働きかける力」を育てる場

- ・ふるさと学習：生活科や総合的な学習で、学校に隣接する「しきしまの家」で地域の方と交流したり地域に出かけて話を聞いたりした。

- ・児童会活動：4つの委員会（生活委員会、健康委員会、図書委員会、放送委員会）で、子どもの発意を尊重した企画を実践し、子どもたちが主体的・積極的に活動した。
 - ・地域行事への積極的な参加：敷島夏祭りでは、5・6年生の児童が「こども棒の手」を披露するなど積極的に参加した。自治区次世代育成部のイベント（ふらっと祭）には、多くの児童が参加し、ボランティアで出店を手伝う児童もいた。
- （4）教育交流（相手校：拳母小学校）
- ・オンラインで交流会を5回行った。1・3・5回は拳母小学校の児童が拳母地区の紹介などをし、2・4回は敷島（旭）地区の紹介などを行い、互いの地域のよさなどを伝え合った。相手校の地域に興味をもつと同時に、自分たちの地域への愛着も高めることができた。

4 成果と課題

- ・校内整備員の配置により、運動場の草取りや敷地内の草刈り等の整備を計画的に行うことで、安全面の確保ができた。
- ・学校図書館司書により、読書環境が整い、図書館利用者数や読書好きな児童の増加につながった。保護者アンケートの結果では、「読書環境を整え、読書に親しむ活動を進めているか」の問いに対して、「とてもよい」「よい」が92%と昨年度より増えた。引き続き、学校図書館司書と連携して、さらに読書活動を充実させ、それらを保護者にも伝えていく。
- ・地域のこと・もの・人に関わる活動、自然とふれあう体験活動を通して、地域や自然に対する興味・関心が高まり、自ら調べたり学習を深めたりする姿が見られる。また、地域を守る人々の生き方について考え、身近な環境に対して意欲的に働きかけようとしたりする気持ちが育ってきた。
- ・保護者アンケートの結果では、「特色ある学校づくり推進事業を活用し、特色ある教育活動をおこなっているか」の問いに対して、「とてもよい」は50%、「よい」は46%であり、昨年度と同様、高い評価を得た。引き続き、地域への愛着を深める教育活動に力を入れていく。

5 保護者・地域への情報発信の取組実績

- ・学校ホームページを毎日更新し、各学年の取組や縦割り活動の様子を紹介した。
- ・学校だよりを毎月、学区全戸に配布し、各学年の取組や学校の様子、子どもたちの声を紹介した。
- ・学校に隣接する「しきしまの家」で、特色ある学校づくり推進事業に関する学習活動を行った。（1年・2年・4年・6年）
- ・2月の学習発表会にて、特色ある学校づくり推進事業に関する学習の成果を発表した。（全学年）